

霞が関のパパたち写真展 応援メッセージ

「霞が関のパパたち」開催によせて

スウェーデン大使館を代表して、写真展「霞が関のパパ」の開催に際し祝辞を述べさせていただきます。新型コロナウイルス感染症の蔓延により不安な日々が続く中、このような素晴らしい写真展を実現して下さったことに深く感謝申し上げます。昨年末には武田良太国家公務員制度担当大臣に「スウェーデンのパパたち」を視察訪問していただきました。武田大臣とスウェーデン育児休暇の経験を分かち合うことができ大変嬉しく思うと同時に、大臣が「スウェーデンのパパたち」影響を受けられ本展示会「霞が関のパパ」を実現して下さったことを大変光栄に思います。

1974年、スウェーデンは世界で初めて出産休暇を育児休暇に変更しました。スウェーデンには寛大な両親休暇制度があります。両親は育児休暇を480日取得することができます。そのうちの90日はお互いに譲ることができません。最初の390日間は従前賃金の80%給付、残りの90日間は定額給付となっています。それにもかかわらずスウェーデンの父親は育児休暇全般の約30%しか取得していません。「スウェーデンのパパたち」はスウェーデン人写真家ヨハン・ベーヴマン氏によって撮影されました。ベーヴマン氏はスウェーデンには寛容な育児休暇制度があるにもかかわらず男性と女性が同等の日数を取得している割合が25%（当時の数字）であることに驚愕しました。ベーヴマン氏自身、育児休暇中に父親視点の育児に関する情報を得ることができませんでした。より平等な社会に向けての重要な一歩は、より多くの父親が父親としての自分たちの役割について考え始めることだと彼は考えました。本展示会で「スウェーデンのパパたち」からの2点を紹介できることができとても嬉しく思います。

「スウェーデンのパパたち」は65か国以上で展示されました。日本では25都道府県、46会場で展開され85000人以上が観覧しました。このことから父親の育児への参加が日本で、また他の多くの国でいかに重要な課題であるかを示しています。

繰り返しになりますが、より平等な社会を目指す
スウェーデンと日本の素晴らしい連携と知識の交換を
象徴する本展示会「霞が関のパパたち」の開催を
とても嬉しく思います。

令和2年7月

駐日スウェーデン大使館
臨時代理大使・公使参事官

レーナ・フォン・シドー

